

# 修了生からのメッセージ

八藤後 聡

## 「私の経験から」

仕事と両立して論文を書き上げるという困難なミッションに挑戦する皆さんの参考に少しでもなればと考え、私が修士論文を作成するにあたっての経験、特に苦勞したことを列挙させていただければと思います。

東京駅に隣接する東京ステーションカレッジは、仕事と論文作成を両立させようとする社会人にとって申し分の無い環境であります。終業後、2コマの講義を受講することも可能です。このため、実は所定の単位を取得することは、それほど難しいことではありません。一方で、論文作成という面では、いくつか注意しなければいけないことがあると思います。

第一に、生活に余裕がなく論文への注力が難しいということです。仕事の後、2コマの講義から帰宅すると、12時前後になってしまいます。翌日の業務を考えると、おいそれと夜更かしすることも叶いません。また、仕事後という時間の制約があるため、図書館等での資料集めに苦勞する可能性もあります。この結果、単位取得ばかりが進んで、論文が進まず焦りが募ることとなります。

この解決策としては、各講義のレジュメやレポートを論文内容に寄せていくことが良いと思います。時間のない社会人にとって、3～5頁のレポートの作成時間といえども惜しい。ですから、そのレポートが論文に転用できるようにするべきです。論文の本体に利用できなくとも、注釈の一部にでも利用できれば、それだけ論文が進んだこととなります。

第二に、大学の暦に左右されないことです。大学には、夏休みや冬休み、初年度なら春休みなど、論文作成の追い込みに使えそうな時期があります。しかし、それをあてにして計画を立てるととんでもないこととなります。いわゆるあるあるネタになりますが、論文の追い込み時期ほど仕事が忙しくなります。冷静に考えてみれば、講義期間はそれが言い訳となり業務が免除されたりします。一方、講義がない期間になれば言い訳がないので業務が割り振られる。周囲から見ても、忙しそうには見えなかったりするものです。

そんなわけで、いわゆる学生さんのような追い込みができるという期待はしない方が良いでしょう。難しいこととは思いますが、コツコツと早めに書き上げていくことが必要だと思います。

両立という困難なミッションのため、無駄は極力排除した方が良いでしょう。このためには、早い段階のレポートなどから、論文用の書式に統一しておく必要もあります。

「全ての講義が論文に集約されていく。」先生方からは、常々このように指導をいただきました。結果として実行できなかった私から、これからミッションに挑む皆さんにも同じように「全ての講義が論文に集約されていく」ということをお伝えしたいと思います。